

# エゾマツ



No69 2004. 6. 25

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 目 次

- 1 巻頭言 染井吉野桜の話題 会長 川端 功治 … (1)
- 2 会員の声 香島、小泉、青山、木村さん …………… (3)
- 3 平成16年定期総会報告 …………… (6)
- 4 富良野便より～冬・その2 …… 中山 和恵 …… (18)
- 5 キビタキ …………… 萩野 裕子 …… (22)
- 6 ボランティアの森林づくり …… 小林 文男 …… (24)
- 7 平山の紹介(続) …………… 小栗 法韶 …… (30)
- 8 平山、鶴川、タカの渡り、大麓山などの研修会のお知らせ … (34)
- 9 ボランティア・レンジャー育成研修会のお知らせ …… (37)

晩冬の重苦しい空気を破って一挙に春を告げるのがソメイヨシノの開花です。多くの人々が待ち焦がれる開花日は、気象台の開花予報宣言でスタートを切ります。この予報は的中したことが無いと酷評する方もいますが、大地球の表面を駆けめぐる気象の変化を長期にわたって予報することは、不可能であると云えますが歴年のデータを集積して平均値を求めれば、傾向値は算出出来ましよう。最近の傾向値を頼りに経験と推理を重ねて修正して長期予報の公表の運びとなるのが実態ではないかと思われまます。

これは一例ですがある特定の月日から気温の度数の積算を始め、その合算値が500度に達した時に桜が開花した場合、この500度は貴重な目安になります。ところが気象台は、長年慣れ親しんだソメイヨシノを廃止して、新しく別に用意されたエゾヤマザクラに切り換えたことを発表しました。

しかしながら全国統計はソメイヨシノに限定されているので、これ専用のソメイヨシノは別に用意し北海道だけはエゾヤマザクラの開花予報、開花宣言にするニュースが報道されました。

この機会にソメイヨシノの正体を再度認識したいと思います。関東地方に位置する染井は植木を栽培する有名な産地で、伊豆大島の山桜と江戸彼岸桜（姥桜）を接ぎ木した苗木が好評なので、量産体系を執り関西方面で有名な吉野桜にあやかって、染井地方の吉野桜＝ソメイヨシノと命名、この接ぎ木苗の性質は同一クローンであるあるから品質も安定し全国に出荷されるヒット品と成った。

セールスポイントは原木がウバ桜（開花時に葉＝歯が無い）なのでパツと咲き、パツと散るさまは、武士道の高き誉れに通ずるとして武士軍人に高く評価された。しかしながら平均寿命40年は短命に過ぎ、カラスの巣のような天狗巣病にかかり易く、各種腐きゆう菌にも侵され易いので、おめでたい結婚記念卒業記念の植樹等には敬遠されているのはチョツト侘しい次第です。

円山公園札幌神社境内にある長年气象台に貢献したが、お払い箱になった試験木はいかようにお過ごししか尋ねてみた。おりからお花見の喧騒真っ盛りの良い場所のど真ん中に2本、ソメイヨシノがしょんぼり姿で立っていた。欲目でみても3分咲きか。それは一面の満開の桜の中にあつて、腐れた胴腹を衆目に晒し、よくもまあ長年開花予報に務めて、ほんとうに役に立ったのかと疑った。

何かの機会にソメイヨシノか否か迷った時に開花と同時に葉が出ないのがソメイヨシノ（母種のウバザクラの血を引く）としてきたが、さらに加えて花弁を支えている萼に注目して下さい。星型の萼片にギザギザの鋸歯があるのがソメイヨシノ（母種のオオシマザクラの血を引く）で、おまけに仄かな香りがあります。

気象の激変に生物は微妙に変化して対応するので、開花予報の推理には積算温度だけでは処理出来ない世界がありますので、お祭り騒ぎの為に、あまり神経をすり減らすことも無いと思いますが如何がなものでしょうか。

## 新役員紹介

16年度の総会で新役員が選出されました。2年間の任期を会員の皆さんの協力のもとで、本会を運営していきます。

会長 川端 功治

副会長 五十嵐 一夫 田村 允郁（事務局長兼務）

総務部 三崎 篤（部長） 橋場俊子（会計） 久志本 アイ

研修部 小林 英世（部長） 田中 利男 伊藤 秀平 春日 順雄

五十嵐 一夫 今村 ひろこ 荻野 裕子

広報部 佐藤 清一（部長） 内山 恭子 田村 允郁

監査 猪師 勉 高松 文雄

顧問 大友 健 佐々木 幸夫 佐藤 健一

## 会 員 の 声

札幌市白石区 香島 由美子

我家の樹々達15年。此地に引越して16年余り始めて庭を造りました。植えていたのはサクランボ2本、ハウチワカエデでした。植えたのは紅葉、まゆみ、ゲンペイウツギ、レンギョ、オンコ、ドウダン2本、つつじ低木仕立4本、ブドウ（キョホウ）、ライラック白2本など14本。始め、十年位は、苦にもならず、世話をしておりましたが、紅葉はいらが虫が着いて、葉ごと殺しておりました。桜が繁って冬に枝切りし、今頃ひこばえを払って、毎年の事、実は鳥用しか成りません。

昨年、ハウチワ楓が20年位たったのが枯れて、紅葉が見られずショックでした。又近くの巨木も切られて、駐車場になって鳥の訪来は、諦める事になりました。残念です。

札幌市東区 小泉 郁夫

年に一度、仲間うちの8家族、十数名をニセコに招いて散策のご案内をする。その折に、自然のほんの初歩的な解説でもできればと習いはじめ、引き続いて参加させていただいたのがボラ・レン。したがって下見の研修会のみ参加させていただいてきましたが、このところ欠席が続いて、せっかく皆様から教えられたことも年ともに忘れがち。

今年は例年の仲間たちのほかに、近く俳句の仲間をニセコに案内することとなり、近郊の藻岩山などを歩いてにわかには思い出しの勉強。やはり下見会に参加させていただいて、せめて忘れを防がなければと考えているところです。

先日、オコタンペ湖-道々78号線沿道の環境清掃に参加した際、道端に「ハクサンチドリ(白山千鳥)」の群落に遭遇した。周りを見渡すと「ハルザキヤマガラシ」「エゾヘビイチゴ」と咲いていること咲いていること--。ゴミ清掃も上の空でしばし見惚れておりました。

GMには深雪の喜茂別岳(標高1,176米)に3時間かけて「つぼ足登山」を決行。エゾマツ樹林でエゾフクロウと追いかけてっこをし、紫外線をうけて顔真っ赤。豊平峡ダム「九段の滝」急斜面に“シラネアオイ”がひっそりと咲いていた。自然っていいな—もっともっと花と鳥に遭いたい。勉強しておきます！

アポイの麓でボランティア・レンジャアの研修をうけ、早5年？がたちました。人口36,000人ほどの伊達市(道南の洞爺湖の近く)でこの間サラリーマン生活の余暇を利用し、市民の自然観察会を主催してきました。自然におおいに親しみ、少し自然に学び出来れば自然を守ろうという、ゆるやかでささやかな活動です。夏場は毎月の観察会を続け冬は若干の勉強会という具合ですが、おかげさまで8年目を向かえ、会報も58号(カラー)を数えるまでになりました。又、貝塚公園での「縄文の森づくり=植樹」活動(世話人代表)は5年が過ぎ、植えた苗木も随分大きくなり、森の様相を呈してきました。

もう一つ、街なかの開拓記念館で「野草園+ビオトープ」作り(世話人)も3年目をむかえカタクリの種蒔き、野草移植、虫や鳥達が集まる低木植えなどを行い、少しずつ野草園らしくなってきました。後者の2つは市民ボランティアで市教育委員会文化財課が事務局を担当する行政と市民との協働の活動です。(自然観察会メンバーも参加)

自然への興味を持つ人が少しでも増えてほしいという一念で、素人であるという事を顧みず、市広報や新聞へのコラムを書いてきました。市の政策へも「都市計画マスタープラン」づくり、「みどりの基本計画」づくり市民会議などには自然系の人々と参加し、自然の大切さと保護を提案してきました。

世の中の流れが少しではありますが、自然の大切さを認識する方向に変わってきているように思います。自分の趣味も兼ねて(長続きの秘訣?)、もとより微力なのですが、自然保護の活動を続けて行きたいと考えています。

## 広報部からのお願い

- 1、会員の皆さんからの意見、提案、感想をお寄せ下さい。
- 2、その際、今後、編集上文字数を横36字、縦27行としていきたい。  
そのため文字数としては約950字程度、カットなどを挿入した場合にもその数の枠内で。なお一ページを一つの単位として原稿を作成してください。  
多くの人の意見を掲載したいのでできれば2ページ程度にしてほしい。
- 3、なお、できるだけパソコン、ワープロなどで作成してください。その原稿をFAXで送ってもらっても、印刷すると不鮮明になるので、担当の佐藤清一まで郵送して下さい。
- 3、その他。当然のことですが、手書きの原稿などは投稿してくれたままに印刷しています。なお、句読点などわずかに直させてもらっています。

# 平成16年度 第19回定期総会



日 時 平成16年4月10日(土)  
13:00~16:30  
場 所 北海道環境サポートセンター  
(札幌市北区北7条西5丁目千代田ビル 011-231-4111)

北海道ボランティア・レンジャー協議会



## 平成16年定期総会報告

例年「かてる2・7」で実施している総会を今年度は「環境サポートセンター」に会場を移して開催しました。

総会に先立っての研修会は、滝野すずらん丘陵公園青少年山の家館長の角谷毅氏による「総合学習と自然環境教育」の講演でした。子どもたちとの関わりを通じて自然環境をどう保全していくかの貴重な話を聞くことができました。

講演後、総会に移り、議長に北広島市の佐藤清一氏を選出して総会が始まりました。出席者36名、委任状67名、計104名で総会が成立したことを確認して議事が進みました。

平成15年度の活動報告ならびに会計決算報告については、地方での観察会の実施を進めた事、会計決算については16年度の収入の減を考え残高を残したことなどが報告され了承されました。

平成16年度の活動計画と予算案については、地方での観察会を増やす方向と野幌森林公園での協力活動を進めていくことが了承されました。

予算案に対して、観察会の保険料徴収の徹底を図ることと、会員のボランティア保険加入についての質疑がありましたが、提案通りで了承されました。

その他の議事については、他団体との関連について、役員改選の規則を検討することの提案があり、16年度の検討課題としました。

今回は役員改選期にあたり新役員が選出されました。

会長、川端功治氏のもとでボラレンが一層の発展に努力していくことが必要なことを確認して総会が滞りなく終了しました。



〈1号議案〉

1. 平成15年度事業報告

(1) 観察会事業

観 察 会 名	日 時	集 合 場 所	参加人数		備 考
			一般	会員	
4月の森の観察会	4月17日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	66	8	協力
春のありがとう観察会	5月11日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 ふれあい交流館前	36	13	協力
円山登山観察会	5月15日(木)	円山大師堂 登山口	13	2	サークル活動
恵庭自然観察会	5月25日(日) 10:00~12:00	恵庭公園駐車場	7	8	主催
三角山登山観察会	6月5日(木) 10:00~13:30	三角山 緑花会登山口	13	4	サークル活動
野幌自然観察会	6月8日(日) 10:00~12:00	野幌森林公園 森の自然教室	70	11	協力
黒松内ブナ林観察会	6月14日(土) ~15日(日)	黒松内 歌才自然の家	3	13	主催
富良野 富良野岳観察会	7月5日(土) ~6日(日)	富良野 白銀荘	3	11	研修を兼ねる 主催
7月の森の観察会	7月17日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	51	9	協力
夏の森の観察会	8月10日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 ふれあい交流館前	28	8	協力
別海自然観察会	8月30日(土) ~31日(日)	野付半島	8	6	主催
9月の森の観察会	9月18日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	59	9	協力
北見自然観察会	9月20日(土) ~21日(日)	北見市 若松休養センター	5	8	研修を兼ねる 研修部
利根別自然観察会	10月5日(日) 10:00~12:00	利根別公園 大正池駐車場	1	5	主催
秋の森の観察会	10月19日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 ふれあい交流館前	33	9	協力
秋のありがとう観察会	11月9日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 ふれあい交流館前	30	8	協力
西岡公園 自然観察会	11月23日(日) 10:00~12:00	西岡公園事務所前	8	8	サークル活動

12月の森の観察会	12月18日(木) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	31	10	協力
冬の円山登山観察会	1月18日(日) 10:00~12:30	円山登山口	6	6	主催
冬の森の観察会	2月8日(日) 10:00~13:30	野幌森林公園 ふれあい交流館前	21	11	協力
早春の森の観察会	3月14日(日) 10:00~12:00	野幌森林公園 開拓記念館前	37	11	協力

●小樽支部観察会

観 察 会 名	日 時	参加人数				備 考
		一般	会員	補助	計	
天狗山～オコバチ川	4月26日(土)	26	4		30	
なえば公園	5月8日(木)	41	1	2	44	共催
天狗山～穴滝	5月17日(土)	43	3	3	49	
オロフレ山	6月7日(土)	32	3	3	38	貸切バス
羊蹄山	6月28日(土)	10	4		14	
雨竜沼	7月19日(土)	48	6		54	貸切バス
塩谷丸山	9月27日(土)	22	4		26	
天狗山～穴滝	10月11日(土)	18	5		23	
なえば公園	10月18日(土)	27	5		32	共催
小樽市有林	11月8日(土)	31	2	2	35	納会
天狗山～オコバチ川	2月14日(土)	10	2	1	13	カンジキ
塩谷丸山	3月27日(土)	10	2		12	カンジキ

(2) 研修会事業

- ・4月12日(土) 講演 「動物園の役割」 元円山動物園長  
金 田 寿 夫 様
  - ・6月14日(土)～15日(日) 黒松内ブナ林研修会
  - ・7月5日(土)～6日(日) 富良野白銀荘観察会(研修会を兼ねる)
  - ・8月30日(土)～31日(日) 別海自然観察会(研修会を兼ねる)
  - ・9月20日(土)～21日(日) 北見観察会(研修会を兼ねる) 北見支部主催
- 注 ・各種観察会の下見を会員研修の場として実施

(3) 他団体への協力派遣事業

- ・6月17日(火) 札幌市消費者協会厚別区 ガイド 1名派遣
- ・6月20日(金) 創造学園観察会 ガイド 2名派遣
- ・6月21日(土) 慶祥高校PTA 観察会ガイド 3名派遣
- ・7月12日(土)～13日(日) ボランティア・レンジャー育成研修会 3名派遣

# 平成16年度 第19回定期総会日程

日 時 平成16年4月10日(土) 13:00～16:30

(環境サポートセンター)

- ・受付 13:00～13:30
- ・研修会 13:30～14:45
- ・総会 15:00～16:30

## 《研修会》

◇演 題 「総合学習と自然環境教育」

講師 角 谷 毅 様 (滝野すずらん丘陵公園青少年山の家館長)

《定期総会》 司会進行 佐藤健一総務部長

(出席・委任状、総会成立確認)

1. 開 会

2. 会長挨拶 川端会長

3. 来賓紹介と来賓挨拶

野幌森林公園事務所 所 長	中 川 剛 志 様
” 総務課長	野 口 光 紀 様
” 主 任	永 安 芳 江 様
” 主 任	瀧 澤 克 昌 様

4. 議長選出と議事録署名人の選出

5. 議長就任挨拶と議事録署名人の紹介

6. 議 事

1号議案

- ・平成15年度事業報告
- ・平成15年度決算報告並びに監査報告

2号議案

- ・平成16年度事業計画(案)
- ・平成16年度収支予算(案)

3号議案

- ・役員改選
- ・その他

7. 議長退任

8. 閉 会

《連絡事項》

- ・10月 1日（水） 江別市立第二小学校3年生校外学習 ガイド 8名派遣

（4）広報誌「エゾマツ」「自然観察NOW」発行事業

- ・6月10日（火） エゾマツ 65号 発行
- ・10月24日（金） エゾマツ 66号 発行
- ・1月26日（月） エゾマツ 67号 発行
- ・3月28日（日） エゾマツ 68号 発行
- ・自然観察NOW 11回発行（野幌森林公園観察会参加者に配布）

（5）会 議

- ・15年度18回定期総会 4月12日（土） かでの2・7（札幌市中央区北2条西7丁目）
- ・15年度第1回役員会 5月14日（水） 環境サポートセンター
- ・15年度第2回役員会 9月19日（金） 環境サポートセンター
- ・15年度第3回役員会 1月21日（水） 環境サポートセンター
- ・15年度第4回役員会 3月25日（木） 環境サポートセンター

（6）その他の活動

- ・4月16日（水） 野幌森林公園事務所へ挨拶 会長、事務局長
- ・4月17日（木） 環境道民会議 かでの2・7 会長出席
- ・4月23日（水） 野幌森林公園ゴミクリーン作戦参加 登満別コース
- ・5月 9日（金） 育成研修会の打ち合わせ（フィールド研修講師3名派遣決定）
- ・6月27日（金） 環境省 環境白書説明会 事務局長出席
- ・7月13日（日） 育成研修修了者に本会加入勧誘（12名加入）
- ・9月20日（土） オホーツク支部との交流懇親会
- ・10月15日（水） 森づくりボランティア情報ネットワークへの参加
- ・3月 1日（月） 総会研修会講師決定（滝野青少年山の家館長 角谷毅氏）
- ・3月16日（火） フォレストガイド育成研修協力

平成 15 年度決算報告及び監査報告

平成 15 年度決算報告

収入の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
前年度繰越金	346.796	346.796		
年会費	450.000	381.000	▲69.000	131名 新入会員 2.000*12名
雑収入	153.204	8.811	▲144.393	エンブレム販売 協力謝礼
合計	950.000	736.607	▲213.393	

支出の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
総務部費	120.000	92.326	27.674	通信費 役員会総会会場費 役員会交通費 事務用品費 交通費 雑費
事務局費	160.000	101.539	58.461	通信費 事務用品費 記録代 雑費
研修部費	120.000	39.576	80.424	研修会宿泊補助 研修会講師謝礼 通信費 地方支部交流交通費 事務用品費 雑費
活動費	100.000	53.000	47.000	総会参加補助 観察会交通費補助 地方支部 賛助金
広報部費	200.000	149.467	50.533	会報エゾマツ制作送料 通信費 雑費
予備費	100.000	0	100.000	郵便振替手数料
特別会計	150.000	150.000	0	20周年記念企画積立金
合計	950.000	585.908	364.092	

収支残高

単位：円

項目	収入	支出	残高
実績	736.607	585.908	150.699

¥150.699 を次年度への繰越金とする

特別会計 20周年記念準備金

単位：円


年月	項目	金額	
15年3月	前年繰越金	790.555	
16年3月	一般会計より繰入	150.000	
合計		940.555	


保有資産 ファックス2台 コピー機 一台  
 寄贈を受けた品 携帯無線機2台一組 事務局保管、双眼鏡15台 望遠鏡  
 2台 聴診器5本 携帯救急医療箱1個

平成15年度監査報告

監査報告につきまして、諸帳簿ならびに領収書などにつき、つぶさに確認、照合しましたが、相違なく正確かつ適正であることを認め、監査報告とします。

平成16年4月 3日

監事 林 師 勉 

監事 高松文雄 

〈2号議案〉

1. 平成16年度事業計画（案）

(1) 事業計画の方針

目 標 「自然との共存、日常の実践から」

重 点

1. 環境保全活動（観察会）に向けての研修と実践に努める。
2. 会員のニーズの把握と会運営の効率化に努める。
3. 各地の会員との交流の場の設定に努める。
4. 地区活動（サークル活動）の発信の活発化に努める。

(2) 会 議

①定期総会

平成16年4月10日（土） 環境サポートセンター

②役員会

理事会を年4回（5月、9月、1月、3月）に開催、三役会は必要に応じて開催

(3) 観察会・研修会・調査活動

- ①観察会については別紙による。また、サークル活動の観察会があれば随時実施。
- ②研修会についても別紙による。また、会員の要望と必要に応じ実施。
- ③観察会の記録化により資料の集積を図っていく。

(4) 他団体への協力

- ①観察会ガイドの要請については、主催の目的等を把握し協力していく。
- ②各関係機関や団体が行う自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。

(5) 広報誌「エソマツ」発行

- ①年4回（6月中旬、10月中旬、1月中旬、3月下旬）の発行
- ②誌面内容と体裁の充実に努力していく。
- ③観察会一般参加者に「自然観察NOW」の配付

別紙用紙を全員に入れる  
総会でも受け付け

(6) 支部や地方会員の活動の活発化。

- ①支部や地方会員の活動化に事務局は積極的に取り組む。
- ②各地での観察会・研修会計画については中期的展望を立て実施していく。
- ③各会員の思いや要望の発信と広報誌による交流を進める。



平成16年度

## 観察会・研修会予定(案)

北海道ボランティア・レンジャー協議会

月	観察会・研修会	実施日時	下見	集合場所	備考
4	4月の森の観察会	16.4.15(木)10:15~12:30	4.8 10:00	開拓記念館	協力
5	春のありがとう観察会	16.5.16(日)10:00~14:30	5.15 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	三角山登山観察会	16.5.23(日)10:00~14:00	随時	緑花会前登山口	主催
	恵庭公園観察会	16.5.30(日)10:00~12:00	5.29 10:00	恵庭公園駐車場	主催
6	初夏の森をのぞいてみよう	16.6.6(日) 10:15~12:30	6.5 10:00	森の自然教室	協力
	豊平峡ダム自然観察会	16.6.12(土)10:00~14:00	随時	定山溪バスターミナル	サークル活動
	帯広野草園観察会	16.6.20(日)10:00~12:00	6.19		主催
7	7月の森の観察会	16.7.15(木)10:15~12:30	7.8 10:00	森の自然教室	協力
	平山登山観察会	16.7.24~25		白滝小栗邸	主催・会員研修
8	夏の森の観察会	16.8.15(日)10:00~14:30	8.14 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	鶴川観察会	16.8.28~29			主催
9	9月の森の観察会	16.9.16(木)10:15~12:30	9.9 10:00	森の自然教室	協力
	オホーツク支部研修会	15.9.18~19		白滝小栗邸	オホーツク支部主催
10	室蘭測量山野鳥観察会	9月下旬~10月上旬		後日決定	会員研修
	10kmエコハイキング	16.10.3(日)10:15~14:30	10.2 10:00	開拓記念館	主催
	秋の森の観察会	16.10.17(日)10:00~14:30	10.16 10:00	交流館(大沢口)	協力
11	秋のありがとう観察会	16.11.7(日) 10:00~14:30	11.6 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	西岡水源地自然観察会	16.11.23(火) 10:00~12:00	11.22 10:00	管理事務所前	主催
12	12月の森の観察会	16.12.16(木)10:15~12:30	12.9 10:00	開拓記念館	協力
1	円山登山観察会	16.1.16(日)10:00~12:30	1.15 10:00	円山登山口	主催
2	藻岩山登山観察会	17.2.6(日) 10:00~14:30	2.5 10:00	終直会登山口	主催
	冬の森の観察会	17.2.20(日)10:00~12:30	2.19 10:00	交流館(大沢口)	協力
3	野幌の春を探そう	17.3.6(日) 10:00~12:30	3.5 10:00	交流館(大沢口)	協力

## 観察会計画の基本方針

1. 野幌森林公園事務所の行事計画に積極的に協力する。
2. 会員研修を年間計画に位置付ける。
3. 支部主催行事については研修部、事務局が協力実施する。
4. 時代や社会の要請をうけ、新しい企画を考える。
5. 下見については、原則として前日とする。(4、7、9、12月の森の観察会は前週木曜日)
6. サークル活動を活発化させる。(会員の観察会の発信と事務局、研修部の協力)

平成16年度 小樽支部 観察会(案)

4月25日(日)	赤岩山～オタモイ海岸	赤岩2丁目バス停前	9:00
5月22日(土)	銭函天狗～銭函川～桂岡	国道5号線銭函バス停前	9:30
6月26日(土)	積丹岳	貸切バス第三ビル前	6:30
7月10日(土)	大平山(健脚向き)	島牧村役場	7:30
9月25日(土)	余市岳(バス乗り場跡)	キロロ終点バス停	9:30
10月16日(土)	最上町～遠藤山～穴滝	丸山最上町登山口	9:00
11月6日(土)	市有林後納会(昼食会)	しが長橋店駐車場	8:30
2月19日(土)	天神浄水場～天狗山東斜面	天神浄水場広場(カワキ)	9:30
3月27日(土)	塩谷丸山	JR塩谷駅駐車場(カワキ)	8:30

参考

1. 約1週間前に新聞(道新小樽版、読売新聞金曜日夕刊)に集合場所、時間を掲載予定。
2. 天候の都合で、日時変更することがありますので、事前に申し込みしてください。
3. 参加料は300円です。貸切バスは実費。(当日受付)
4. 自家用車の方は、事前に連絡してください。(駐車場の状況、乗り合わせの可否等)
5. 申し込み問い合わせ等は、☎ 0134-27-1701 北原宅まで。

平成 16 年度予算案

収入の部

単位：円

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	150.699	会員 123 名 寄付金など
年会費	369.000	
雑収入	10.301	
合計	530.000	

支出の部

単位：円

項目	予算額	摘要
総務部費	80.000	通信費 会議室借用費
事務局費	90.000	通信費 事務用品費 事務資料費
研修部費	90.000	研修会謝礼費 研修雑費
活動費	90.000	地方支部活動費 観察会交通費
広報部費	160.000	会報エノマツ制作 郵送費
予備費	20.000	
合計	530.000	

特別会計 20周年準備金

単位：円

項目	予算額	前年度繰越	合計	摘要
20周年記念準備金	0	940,555	940,555	
合計	0	940,555	940,555	

## 富良野便り～冬・その2

### 公民館講座 『森を探検しよう!』 富良野市 中山 和恵

3月6日(土) 地元、富良野市東山にて、冬の観察会を開催しました。今年に入り、一人で森を散策していた所、カラマツの木にセミの(ミイラ)を発見! 私だけが楽しむのはもったいない、地元の子供達にも感動をお裾分けしよう! と、公民館に相談してみたところ、担当の方が、子供の体験型・自然観察会をやってみたくて考えていた矢先だったようで、運良く? 私の企画が開催される事になりました。セミだけの観察では、せっかくの冬の森がもったいないと思い、セミは締めくくりのお楽しみ! という事にして、1日の時間をたっぷりと遊ぼうと思い、午前は室内ゲーム、お昼は、野外での軽食、そして森へ、と企画し実行してみました。

当日は、小学1年生～6年生迄11名と、父兄1名の参加がありました。暖かい日が続き、冬用に企画した内容、雪の観察・結晶を保存しよう! は、当然、不可能に終わってしまいました。3月の雪は粒が小さく、とても結晶とは呼べない状態で、当日は断念しました。公民館講座の案内が既に出されていた為、これを楽しみに参加する子供達に申し訳ないと思い、うっすらと夜の明ける気温の低い時間にトライしてみましたが、失敗に終わりました。成功したなら、子供達に記念に渡そうと、小さな可愛い封筒や一言メモの便箋まで用意したのですが…。(ごめんね。)の気持ちをこめて、その封筒には押し葉のパウチと、メッセージを添えて掃りに一人一人に渡しました。公民館担当の方が、雪の結晶のプログラムの変更用にと、『ころころアイス作り』を用意して下さいました。何でも昨年子供会で、このアイス作りに失敗したそうで、リベンジの機会を待っていたようです。とても美味しいアイスが出来あがり、子供達はこちらの方が満足した様子でした。

注: プログラム案の室内ゲームを先にもってきて、このアイス作りは昼食の前に実施しました。

冬の森に折角入るのですから、野生動物にも、ほんの少だけ興味を持って貰おうと、プロジェクト・ワイルドのゲームから、オー・ディア! を引用しました。動物が生きる為に最も必要なものに注目し、生息地の必須要素(食物・水・隠れ場所)の3点を取り上げ、これらの要素に加えて動物は生きる為に、十分な生活空間も必要である事と、これらの要素がきちんと揃わないと動物は死んでしまうという事を伝えながら、人数と、低学年の子にも楽しく参加できるように、私なりのアレンジを加えながらゲームを開始しました。

動物はエゾシカです。(エゾシカの越冬跡と食痕と糞が、午後からの探検の森にあるので、午前の内容と繋がるように、エゾシカで設定しました)

パンダと犬のイラスト付きのガム(子供の興味を惹きつけるアイテム? 笑)で、エゾシカ役(5名・墓田含)と三つの要素役の子(8名・父兄含)とを決めまし

た。室内は大会議室を使用、部屋の両端・左右の床2箇所にてテープを貼り、エゾシカの場所と3つの要素の場所、とを作ります。(今回は7M 位の間隔でやってみました) エゾシカ役の人にエゾシカの絵(子供向きに漫画的な鹿を水彩と厚紙で私が作りました。少しでも、楽しんで貰う為のアイテムです)を首にかけてもらい、両者が後向きに並び、エゾシカ役も要素役も各々、求める物、なってみよう要素を個人の意思で、頭の中で決めてもらいます。どちらも両手で求める物、なりたい物の要素を作ります。水は口で飲むポーズ、食物はお腹を押さえます、隠れ場所は頭上で屋根を作ります。

私の笛の合図で両者は正面を向き、両手は各々3つの要素を作って、求める物に向かってエゾシカは走り、3つの要素は捕まらない様に逃げ廻ります。そうする事で水や食物、隠れ場所の確保は容易な事ではないのだと子供達に感じて貰えたなら…と思いました。

午後からの森の探検時には、このゲームがきっかけになったのか、ネズミの足跡を追いかけてたのかな?なキツネの足跡を発見したり、「ネズミ、雪の下に隠れたんだね、キツネはご飯食べれなかったんだよね?生きてるかなあ?」「雪、食べるの?食べるなら水を探さなくてもいいんだよね。」木の小枝をかじった跡があり、「こんなの食べているんだね、可愛そう、でも、おいしいのかなあ?」「熊は冬眠しているから、要素はおうちだけでいいんだね、何にもしなくていいんだよね、ずるいなあ!」な声が聞きました!ゲームの成果と信じた私でした。

また、雪が笹などに積もり、出入り口のようにも見える雪山の隙間(穴)を見つけては、「これ、何の巣?熊?」などと怖い物知らずな冒険家になってしまう、頼もしい子もいました。少しでも野生動物に興味をもってくれたのかな?と嬉しい瞬間でした。

このゲームの1回目ではエゾシカは、増えてしまい、食物、水が簡単に豊富に手に入った事、隠れ場所になる森もちゃんと存在した事から増えたのだと理解して貰えたと思っています。2回目のゲームでも、エゾシカが増える様子でしたので、(台風)をゲームの途中に加えました。台風でエゾシカの求める物がどれかひとつ消えてしまうのです。エゾシカに天災という難関を与える事により、子供達には、エゾシカが生きる為(個体数を維持する)には、どれが欠けても絶滅に結びつくという事を理解してもらえれば…と、要素を減らしてみました。3つの要素役は話し合って要素を1つ、使いません。子供達は、真剣に、台風で何が一番に消えるのかを話し合い、エゾシカがこれ以上増えないように?(子供はエゾシカの個体数維持より、エゾシカ役に勝とうと真剣だった!)な、作戦を練って、なんと云うことか…エゾシカを絶滅させてしまいました。[今年の東山地区のエゾシカによる農業被害を擬似!で救った子供達なのでした。笑!]

ころころアイス作り終了後、神社へと移動し昼食です。雪でテーブルを簡単に作り、ガスコンロに網を置き、フランスパン、ウィンナーなどを焼き、インスタ

ントスープ付きで、さあ食べよう！としたのですが、やはりまだ冬の外…手が冷たいと泣き出す子が出て、この外での昼食は失敗と反省したのは言うまでもありません…。

スノーシューを履き、いよいよ森の探検です。

落ちていた小枝を次々に集めまくり、先頭から遅れる子。早く森深く入り込もうと、黙々と登って行く子。誰よりも早く何かを発見しようと、道から逸れる子。私は、自分の体力に不安を感じてしまいましたが、朽ち木に沢山の穴を発見した子の元へ全員が興味を持って集合し、それをきっかけに行動が一塊に落ちつき、私の口から注意の大声はたった1度きりという、なんと協力的な子たちだったことでしょうか…。

スズメバチの大きな巣を発見した時は、下に落として中を見たいとなり、あらゆる手段を駆使する事になりました。折れて雪に埋まった長めの枝を見つけて、せつせと運んで来る子や、木登りに挑戦する子、それも駄目だとわかると、「お姉さん♪」と呼んでくれていたはずの子が、「おぼさん！おぼさん！」と私をこき使い始めていました。《お姉さんの意地！》に、かけて巣を降ろしてあげたかったのですが、結局は落とす事が出来ずに終わりました。エゾシカの隠れ場所を発見したり、ネズミ、うさぎ、キツネ、エゾリスの足跡を辿ったり、小枝の食痕を誰が食べたのか追求したりと、右へ左へと自分達で発見する事に熱心な子供達でした。

さて、今回の目玉、セミです。何故、セミのミイラが木に残っているのか？の理由もそこそこに、ひたすらに瞳はカラマツの幹に集中でした。小さなプラスチックの容器を用意し、持ちかえりたい子に渡していましたが、全員がそっとセミを木から採り、綺麗な形のまま持ちかえる作業に必死でした。

午後の森の引率は私一人という事態に何故か！？なってしまう大変でしたが、子供達の歓喜する姿に励まされ、無事に探検終了となりました。

終わってみれば、山積みな反省点ばかりでしたが、次に向けての意欲も私の中に湧きだしていました。子供達以上に、私が楽しんだ1日だったのかもしれない。次回講座は7月、今度は川の探検です！頑張ります☆

この企画の開催に、沢山の方の力を頂きました。

心良く質問などにお答え頂いたこと、感謝でいっぱいです。経験不足で、未熟な私です、皆様のお力をお借りしながら、自然と人との橋渡し役に頑張っていきたいと思っています！これからも宜しくお願い致します！

～参考にさせて頂いた、過去私の参加した講習会とお世話になった方々など～

- ※ オ・デア！～H15・3月、プロジェクト・タイム（ねおす主催・糠平にて講習）
- ※ 雪の結晶を保存しよう！～H16・1月、冬のおもてなし（野生動物教育研究室 WEL・道東ねおす主催・弟子屈にて講習）♪WEL 遠藤真澄様には、お世話になりました♪
- ※ セミがミイラで存在した理由の解説には、道庁の長尾様から知識をお借りしました。
- ※ スノーシューをアマリグ・ト・ナム星様の好意で南富良野町ハット様より子供用をお借りできました。

プログラム名

冬のおもてなし

～森を探検しよう！～

<日時>	◎平成16年3月6日(土) 9:30～15:00
<同行スタッフ>	◎中山・基田(公民館)
<定員・参加者>	◎小学1年～6年生 15名程度
<参加者持ち物>	◎保険料・各自飲み物(あれば、かんじき)
<集合場所>	◎東山公民館
<時情報>	◎野生動物は越冬中!
<コース>	◎室内(公民館)→野外(東山神社山裏…東大演習林内)
<テーマ>	◎身近な森の中を歩いて、冬の様子(動植物)を知ってもらおう。
<時間>	<内容>
9:30～	○ 開始 ○ 挨拶・内容説明 ○ アイスブレーキング
10:00～	○ 雪を観察しよう!(結晶を保存しよう!)
10:45～	○ 室内ゲーム～オー・デア!(エゾシカの生き残りをかけたゲーム)
11:30～	○ 昼食～神社敷地内へ移動(雪のテーブルで簡単ランチ)
13:00～	○ 東大演習林に入ろう! ・スノーシューに馴れよう。 ・動物の痕跡を探そう!(糞・食痕・足跡等々) ・樹木をよ～く見てみよう!(セミのミ行などの発見) ・雪の上に寝そべってみよう!(五感で冬の森を知る・など)
14:30～	○ 神社着
15:00～	・まとめとふりかえり ○ 終了 ～解散 ・全員のお迎えを確認!
<悪天候の場合>	
※ 野外を中止し、室内ゲーム(oh! deer)と、雪の観察。12:00解散。	
<用意する物>	
スノーシュー・ランチ用材料・応急セット・雪の観察用々具(溶剤、プレパラート、筆、虫かご) ゲームに使うシカの絵(7枚)・しおり等	
メモ	
※ 東大演習林に入林許可を貰いに行く(東山事務所) ・演習林の方に事前に、可能ならば森を案内して欲しい。 ・3月のヒグマ(冬眠からの目覚め)等、危険箇所の有無の確認。 ※ 参加者には、暖かい服装で来て頂く。	

# キビタキ (*Ficedula narcissina*)

萩野 裕子

今号から4回、四季を代表する野鳥を  
紹介させて頂くことになりました。

毎回、野鳥のイラストは(財)日本野鳥の会  
ウトナイ湖サンクチュアリ川崎 慎二チーフ  
レンジャーが描いて下さいます。

キビタキの全長は13.5cm、スズメ大の

大きさで雄の頭から背中黒で目の上に黄色  
い線が入り、翼には白斑があり腰は黄色、お  
腹も黄色でノドがオレンジ色、それに反して  
雌は全体にオリーブ褐色でノドとお腹の中央  
は淡色の地味な姿をしています。

ラテン語表記の学名は「ナルキッシナ」と言  
う名がついています。ギリシャ神話に出てく  
る水に映る自分の姿に恋し水仙の花と化した  
ナルキッソスと言う美少年にちなんでいます。  
この美少年の名はナルシスト(自己陶醉者)  
の語源になりました。

新緑の森で出会う雄は黒と黄色の羽のコント  
ラストが斬新でその名の通り自己陶醉するの  
も頷ける美しい鳥です。

大樹の横枝に止りオレンジ色の咽喉を震わせ  
パイヨ、ポッピリピ、ポッピリピと囀るキ  
ビタキ雄を5・6月ころ良く見かけます。

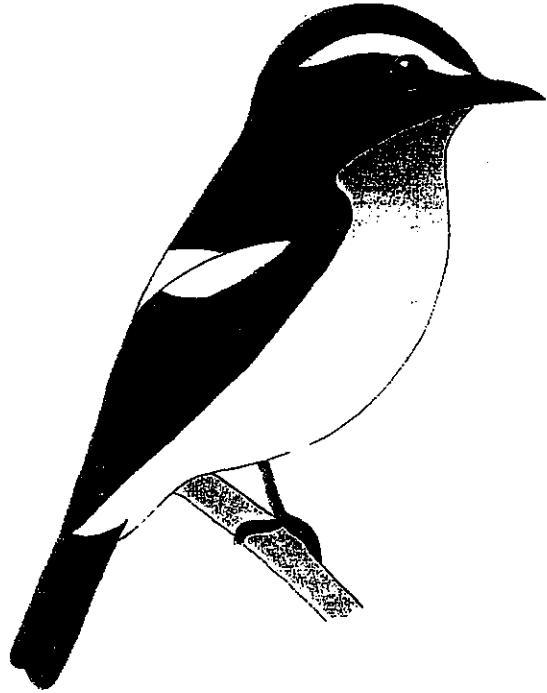
「囀り」とは雄が雌に求愛したり縄張りを示  
す時に出す鳴き声で、特にキビタキの囀りは  
「森のピッコロ」と愛らしく表現されていま  
す。東南アジアから4月中旬頃から5月上旬  
頃、繁殖をしに日本に渡来し樹洞などに営巢  
します。キビタキは虫を空中で飛びながら捕  
まえるのが得意な鳥で、そんな裏技を観察す  
るのも楽しいものです

今回ご紹介しましたキビタキは、私が鳥見を  
始めるきっかけになったほど森で出会うと感  
動してしまう野鳥なのです。



今頃、キビタキ雄が森の小川で水浴び最中に  
自分の姿を水に映しウツトリとしているかも  
しれませんね。今年も豊かな自然の中で少し  
でも多くのキビタキに会いたいものです。

参考文献 フィールドガイド日本の野鳥 (財)日本野鳥の会  
日本動物大百科鳥類Ⅱ 平凡社



キビタキ♂ イラスト

(財)日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ  
川崎 慎二チーフレンジャー

## ボランティアの森林づくり

「札幌市民の水源の森を守る植林」実施あれこれ  
NPO法人森林遊びサポートセンター代表 小林 文男

### はじめに

NPO法人森林遊びサポートセンターが誕生して一年が経ちました。この間各種関係機関や諸団体等のご指導をいただきながら、森林づくりや自然観察、登山等いろいろな行事に取り組んでまいりました。

「札幌市民の水源を守る植樹」や「札幌市環境緑地の活動団体」としての基礎踏査、「道民とともに考える森づくりの集い」への参加等、会員がそれぞれが持っている得意技を出し合いながら心を合わせて取り組む事ができました。

今回はこの中から、森と水についての理解を深めていただくということで、「札幌市民の水源の森を守る植林」の実施あれこれ、について書かせてもらいます。

### I 札幌市民の水源の森づくり

おいしくて安全な札幌の生活用水を生む水源の森を守るため、奥定山溪国有林の一角を対象にして、石狩森林管理署長と当センターの間で「ボランティアの森」事業の実施に係る協定を2002年10月5日に締結しました。

当センターではこの日から、現地の状況把握やら周囲の測量、そして植えつける苗木の掘り取り場所等の確認をし、翌年からの作業準備を進めました。

いよいよ2003年の春を迎えましたが深山の雪解けは遅く、6月の中旬から植付けの前に行う地ごしらえ作業から始まりました。



そして、クロエゾ松苗木の山取り作業（自然に芽生えた苗木の掘り取り）と、その苗木を使っての植えつけ作業までの一貫作業を多数の会員と一般公募参加のみなさんのご協力によって面積0.40ヘクタール完了しました。

### II 水源の森奥定山溪国有林の歩み

この地域は国道230号線中山トンネルから中山峠に至る間に望まれる、お馴染みの札幌岳や空沼岳、漁岳に囲まれた奥深い広大な森が奥定山溪国有林です。

ここの森林は古くから大変大事に取り扱われてきました。帝室林野局時

代 1910 年（明治 40 年）代から択伐（一定の基準に達した樹木だけを選んで伐り出す方法）が行われていました。

この当時から切る木を選ぶ技術は優れており、北海道国有林の中でも模範的な択伐が行われたといわれています。

このような森林の取り扱いのなかで、戦時中は軍用資材の伐り出しや、戦後の復興資材供給から数々の災害復旧等われわれの生活に大きく貢献してきました。

1972 年には豊平峡ダムが完成し、その水源の森としての役目を担うことになりました。

この森のほとんどが支笏洞爺国立公園に含まれ、北海道で最初の山岳ハイウェイといわれた国道 230 号線から一望されることでもあり、その景観を損なわないようにしながら、その機能を発揮できるように十分気を配りながら取り扱っている森です。

この森にはトドマツ、エゾマツ、ミズナラ、センノキ、カンバ類等からなる混交林（天然の針葉樹や広葉樹の混じった森林）で、大小の木からなる複層林（木の年齢や木の高さがちがう樹木からできている森林）となっております。

このようにしてこの森は、水源の涵養と自然景観の保全、鳥獣をはじめとする多様な生態系の維持などを考えた取り扱いをつづけているのです。

### Ⅲ 森はどうして水源を守るのか

#### 1. 森は川の源

深い森の地面は、いつもしっとりと湿り気を帯びています。これは、長い年月にわたっての積み重なった落葉や落枝等が、地中の生物によって分解されたものを、枝や葉の影がその湿気を守っているからです。

この地面の湿気とすき間が、雨や雪解けの水をたつぷりと地中にしみ込ませることができます。

しみ込んだ水が地下水となって、やがて豊平川の流水を生むこととなります。

#### 2. 森は緑のダム

森に降った雨や雪はどうなるのでしょうか？

##### (1) 中間流

森に降った雨や雪が地中にしみ込んだものの流れが勾配に沿って表層近くをゆっくり下り、沢筋に出ることを中間流というています。

##### (2) 地下水

中間流よりさらに深いところにしみ込んでいって地下水の流れとなったもので、このながれは、土壌の細かなすき間をじわじわと進むだけです。

例えば、羊蹄山一帯にしみ込んだ水が、京極の噴き出し公園に湧き出るまで、一年に3~30メートルといわれています。また、天売島で調べたデータでは、厚さ3メートルの土層を水が通り抜けるのに百年近くかかる計算が成り立つともいわれています。

### (3) 緑のダム

渇水期でも、豊かな森の沢からは清らかな流れが絶えません。これは長い時間かけて地中の旅をして来た地下水のおかげです。

雨や雪をしっかりと受けとめながら地面にしみ込ませ、これをたくわえておくことができる「森」これをいわば「緑のダム」ということになるでしょう。

## IV さっぽろ市の水道の歩み

### 1. 札幌に水道誕生する

札幌の最初の上水道は1909年(明治42年)に、旧豊平町月寒の歩兵第25連隊に引かれた軍用の月寒水道が最初で、ちなみにその総工費17万円であったそうです。

### 2. 浄水道からの給水が始まる

1937年(昭和12年)藻岩第一浄水場から初めて水道の通水が始まり、その給水人口は9万2千人(1万8千戸)で、1日給水能力35,800 $\text{m}^3$ といわれています。

### 3. 定山溪に豊平峡ダム完成する

北海道の中心都市札幌市は著しい人口増加をたどり、給水需要量は急激に上昇した。

1972年(昭和47年)豊平峡ダムが完成し、1日最大683,000 $\text{m}^3$ を確保し、計画給水人口140万人に給水する。

### 4. 現在札幌市の給水の状況

現在札幌市の人口の99.8%が上水道を使用しており、その水源は豊平峡ダム(定山湖)と定山溪ダム(札幌湖)の両ダム合わせて95%をまかなっているといわれています。

### 5. 札幌の「おいしい水」

奥定山溪の森から流れ出る札幌市の水道水は、全国的にも味の良い水として定評があり、旧厚生省の「おいしい水研究会」が選んだ良好な

水質要件に適合している都市に選ばれている。奥定山溪の森がつくる原水は、カルシウムやマグネシウム、カリウム等のミネラル分を適度に含み、さらに本州方面などに比べると、一年を通して水温がかなり低いので、コクのあるマロヤカなおいしさが味わえるといわれています。

## V 水源の森づくりあれこれ

### 1. 水源の森百選に選ばれる

水源林の重要性について普及啓発をはかることを目的として、林野庁が認定した「水源の森百選」に

1995年奥定山溪国有林が選ばれました



### 2. 豊平峡ダムに定山湖とは？

豊平峡ダムの落成が1972年4月で、その中旬から湛水をはじめて約2ヶ月で満水となり定山湖が誕生しました。



一方ダムの方は計画時から豊平峡の地名を付けて豊平峡ダムと称されていた。しかし、地元民は定山溪ダムと名付けてほしいと希望したが、原簿をはじめあらゆる印刷物等から改名は不可能であった。このようなことから当時の定山溪営林署長の発案

で、ダムは豊平峡名を使い、湖の名称を定山湖と呼ぶことで落ち着いたということです。

### 3. 駅通マキの沢林道を通して森づくり（駅通マキのハナシ）

この春の森づくりで通った道は、中山峠から1キロメートル程手前から左側に入る林道で、「駅通の沢林道」と呼んでおります。ところで、むかし定山溪から中山峠に至る駅通の道路があったというが、この道路と何か係りがありそうですが、さてどうでしょう？

その前に、先ず「駅通所」というのは、北海道の開拓をはじめた開拓使が、1869年（明治2年）北海道の要所要所に設けたのがはじまりで、はじめは「運上屋」とか「会所」等と呼ばれ、その後「通行屋」と呼ばれたそうです。

「簾舞通行屋」というのが1872年（明治5年）に設けられて、本願寺道

路（東本願寺が私費を使いすすんで開さくした道路）を通る旅人の宿屋として、また人や物のうんぱんなどして多くの便利をあたえてくれたそうです。

さて、この道路も一時は人通りも少なかったが、またその大事さを考えられるようになり、札幌～定山溪つづいて定山溪～あぶ田と道路が改修されました。

「定山溪駅通所」もこうしたとき、1891年（明治24年）正式に開設されました。

旅人の宿泊からいろいろなお世話、それに人や物の運送で郵便物まで運んでくれたそうです。

「石狩国札幌郡平岸村字定山溪駅通所」というのが正式名称で、広い土地に40坪程の大きい駅舎が建てられ、おす馬三頭・めす馬十九頭・つとめ人（人足）二人・乗合馬車一台・荷馬車二台・馬糞三台という大がかりな設備であったといわれています。

しかし、その頃は道路も悪く、雨でも降ると橋は流され、冬は大雪や吹雪で道がなくなったそうです。ことに、中山峠などはたいへん荒れ果てていたそうです。

旅人は、駅通に泊まってつぎは馬をかり「継ぎ立て所」で乗り継ぎしたそうです。簾舞・中山峠がその「乗り継ぎ所」であったそうです。

中山峠には小屋だけあって取り扱い人はいません。峠に行くとき馬を乗りかえ喜茂別方面に行きました。置き去りにされた馬は、つぎの旅人が来るまで何日もつながれたままで定山溪にもどってくれなかったので馬がかわいそうであったと記されています。

このような「定山溪むかし話」を思い起こしながら、この駅通の沢林道のどこかの部分が当時の道路跡のような気しながら森林づくりに通ったのです。

後日談ですが、定山溪で昔森林の仕事に従事した古老曰くには、昔から駅通の沢と呼ばれていて中山に抜ける歩道を刈払った思いがあるが、それが駅通の路かは定かでないとのことでした。

#### 4. オウたまげた！森遊びに“名水喫茶店が出現”

今年からこの会のネーミング“森林遊び”から、作業現場ではいろいろな趣向を取り入れて実施して見ました。

##### (1) 名水喫茶店の開店

作業の合間に、婦人部のみなさんが深山から湧き出る名水を汲み上げて

美味しいコーヒー店を開きました。  
連日の大奮闘で！一人で数杯も  
注文する人もあり大繁盛でした。



### (2) 旬の山菜現地取りだて大安売！

会員の協力によって、フキ・ウド等の取りだて5割引？販売を実施しました。参加のみなさんが新鮮な山菜を山のお土産にと、販売店も上々の人気におお忙しでした。

この両方の売上は、森林づくりの経費として有効に使用してもらいました。

### (3) 森の道具当てゲーム

森の作業が人力と馬に頼っていた頃の道具を展示し、その名あてゲーム。さて、ガンタ（木回し）・マドノコ・トビ・から今様のワイゼ（測高器）・N式等十数点。それぞれ名解説のせいほとんどが万点！めでたし、めでたしでした。

### おわりに

札幌市民の水がめは豊平川であり、その豊平川を生んでいるのが奥定山溪の森です。この森が衰えては札幌市民の生活が成り立ちません。極端な表現をすれば、われわれが毎日使っている水道の蛇口は奥定山溪の森に直結しているのです。

この森は、われわれ札幌市民のみんなの手で植樹をし、「森」と「おいしい水」をいつまでも守っていかなければなりません！

### ※参考資料等

- 高密度路網を基盤とした天然林施行
- さっぽろの水を生む森<奥定山溪国有林>
- 40年目をむかえたわたしたちの水
- 定山溪のむかし話

## 平山の紹介(続)

白滝村 小栗 法韶

本誌NO67で平山の紹介記載後、植物の詳しい記事を依頼されましたので、隣町の佐野会員の全面的なご協力を得て別図表のようにまとめました。植物帯の三分は平山に登ると植生の違いがはっきりわかります。

この図表作成にあたり次の事項に留意しました。

- 1、平山に関する参考資料から実際に自生していることを確認したものを記載しました。
- 2、NO67の記事と違う植物名、標高はこれが正しいとして下さい
- 3、植物自生の場所付けは群落の大きい方を優先しました。
- 4、里でよく見られるものは除きました。

ところで私についてですがエゾマツに名前が載ったり、会員研修の宿になるなど、何者かと思われているかと存じます。私は平成10年に村役場を定年退職し、8ヘクタールほどの土地で羊を飼い、樹木を育て有機質肥料と無農薬で20アールほどの野菜を作っております。安全な食べ物と運動が健康の素との考えから始めたことです。

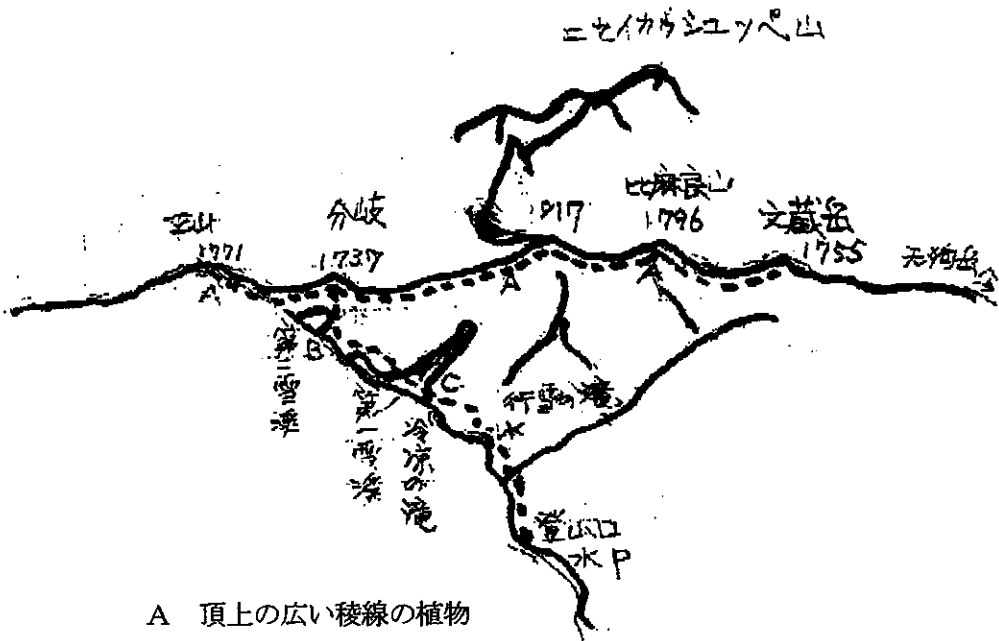
とにかく遣りたいことは何でもやろうと、例えば、私の山は村内天狗平にあるのですが、アイヌ語でスンクタヨロマプと言われたそうで、エゾマツの群生している林シュンクタユロマから訛ったと考えられている。それで天狗の住んでいそうな気味悪い沢から天狗沢となったことを知り、今はあまり見られなくなったエゾマツを育ててみよう、苗木が手に入らないので、倒木更新苗のあるところを人伝てに聞き山採りをして養生しているとか等々。

他人からは毎日山に行つて何遣つているのと言われ、元農家の働き手妻からは、このくらいの畑で毎日何遣つているのはつばをかけられるのですが本人は休日なしで毎日ごそごそと健康のためにと体を動かしております。どれもこれも間尺に合わない支出だけのことばかりなのですが、生きているうちに何か一つ形



として残したいと思っているのですが、家族にはお荷物にならないかと心配であります。研修会の宿。通い作小屋にと造ったものです。手掛けていることすべてうまくいっておりません。この小屋も未完成です。来られる方ががっかりするのではないかと、気恥ずかしい気持ちでいっぱいなのですが、平山は初心者向きの手頃な山です。ぜひ遊びに来て下さい。

## 平山の高山植物



A 頂上の広い稜線の植物

クモマノキノシタ	エゾツツジ	イワウメ
ウスユキトウヒレン	コマクサ	ミヤマクロスゲ
キバナシャクナゲ	コメツガザクラ	ウラシマツツジ
チシマセキショウ	タカネスミレ	レブンサイコ
チシマニンジン	チシマツガザクラ	エゾイソツツジ
イワヒゲ	ミネゾウ	クロマメノキ
タカネシオガマ	リンネソウ	ミネカエデ

コケモモ	オニク	ミヤマリンドウ
チシマギキョウ	カキドウシ	ウツボグサ
エゾキンバイソウ	ガンコウラン	タカネシオガマ
イワヒゲ	ミヤマノガリヤス	ムカゴトラノオ
ミネヤナギ	チョウノスケ	イワベンケイ
チシマゲンゲ	エゾオヤマノエンドウ	メアカンキンバイ
チシマクモマグサ	ミネカエデ	

### B 第2 雪溪上からの植物

ツクモグサ	エゾノハクサンイチゲ	チシマフウロ
イワブクロ	ウスユキトウヒレン	コガネギク
エゾカンゾウ	チシマキンバイソウ	チシマヒョウタンボク
ウメバチソウ	ミヤマダイヤモンドソウ	ミヤマオダマキ
ミヤマキンポウゲ	アラシグサ	ミヤマコウボウ
ミヤマウシノケグサ	ミヤマガリヤス	ミヤマハンノキ
マルバシモツケ	ヒメクモマグサ	ウコンウツギ
ヒメクモマグサ	タカネスイバ	マルバギシギン
エゾマルバシモツケ	チングルマ	タカネナナカマド
ウラジロナナカマド	ソウシナヅナ	アオノツガザクラ
エゾノツガザクラ	ウコンウツギ	

### C 第1 雪溪から上の植物

ヨツバシオガマ	エゾウサギギク	エゾコザクラ
モミジカラマツ	ミヤマヌカボシソウ	アオノツガザクラ
ヨツバシオガマ	シオガマギク	イソオトギリ
ミヤマアズマギク	ミヤマアザミ	ミヤマドジョウツナギ
⑦ キンチツヤクソウ	ミヤマバイケイソウ	ハクサンボウフウ

ミヤマホツツジ	エゾルリソウ	エゾリュウキンカ
モミジカラマツ	ミヤマダイコンソウ	ダケカンバ
チシマカラマツ	ツマトリソウ	シロサマニヨモギ
ナガバキタアザミ	ミヤマイ	タカネスズメノヒエ
コガネイチゴ	タカネトウチソウ	ミツバオウレン
ジムカデ		

D 第1 雪溪から下の植物

クロクモソウ	ジンヨウキスミレ	キバナノコマツメ
ハクセンナズナ	ミヤマアカバナ	イチヤクソウ
クロウスゴ	ショウジョバカマ	オガ子バナ
ミヤマヒカゲノカズラ	ミヤマハンショウズル	マイズルソウ
サンカヨウ	ゴゼンタチバナ	フッキソウ



## 平山登山研修会のお知らせ

普段見慣れている野草からちょっとはなれて、大雪の高山植物を見にいきませんか。それと、なかなか行く事のできないヒマラヤ、この響きをもつヒマラヤマ(比麻良山)と平山に登ってみませんか。

日 時 7月24日(土)～25日(日)

集合場所 白滝 駅

集合時間 第1次 10:20(特急到着時間) 第2次 13:00

宿泊場所 白滝 会員小栗氏の山小屋(寝袋持参)

会 費 3000円(夕食、朝食、交流会費等)

日 程

24日		25日	
10:20	第1次到着(小栗氏宅待機)	5:00	起床
13:00	第2次到着	6:00	出発
13:20	全員集合後丸瀬布昆虫館見学	6:20	登山口
17:00	夕食および交流会準備	6:40	登山口出発
18:00	夕食および交流会	8:00	第一雪溪
22:00	就寝	9:00	平山
		9:40	比麻良山頂上
		10:00	頂上発
	(列車の方は丸瀬布まで送ります。)	10:30	平山
		11:00	第一雪溪
		11:45	登山口

上記日程で行いたいと思います。日帰りも認めますので当日登山口まで来てください。交通手段は車の相乗りを考えています。夕食については、オードブル、おにぎりを用意します。次の日の昼食、行動食は各自持参お願いします。隠し財産大いに歓迎。参加される方は、7月18日までに研修部長小林英世まで連絡ください。

TEL・FAX 0123-36-3944

メール [hideyof@mint.ocn.ne.jp](mailto:hideyof@mint.ocn.ne.jp)

## 鶴川宿泊研修のお知らせ

今回は干潟にいる、シギについて学習しようと思います。

日 時 8月28日(土)～29日(日)

研修会場 四季の館(鶴川町美幸町3丁目3-1 TEL 01454-2-4171)

集合受付 13:00

宿泊場所 鶴川町交流館(鶴川町美幸町4丁目)

会 費 2000円(夕食、朝食、交流会費等)

講 師 小山内恵子氏 門村徳雄氏 荻野裕子氏

日 程

28日	29日
13:00 集合受付	6:00 起床
13:30 机上学習	7:00 交流館発 8 (シギ観察)
15:30 研修終了	
15:40 入浴(自由時間)	12:00 解散
17:00 交流館移動	
17:10 懇親会準備	
18:00 懇親会	

四季の館は入浴施設が有りますので、研修終了後に入浴してください。宿泊は旧町長公宅ですので、寝具がありませんので寝袋を持参してください。

夕食については、総菜など買ってきて食べようとおもいますので協力をお願いします。朝食についても、朝おにぎりなどを買ってきますのでよろしくお願いします。

28日は講師を交えての懇親会を催しますので多数の参加をお願いします。

車については相乗りを考えていますので、協力よろしくお願いします。

参加される方は、8月20日までに研修部長小林英世まで連絡ください。

TEL・FAX 0123-36-3944

メール hideyof@mint.ocn.ne.jp

## 「タカの渡り」観察会 (サークル活動)

海上を渡っていくノスリ・オオタカ・ハイタカなどを室蘭測量山の頂上から観察します。併せて秋の自然を楽しみましょう。

日 時 10月10日(日) 10:00~13:00

(昼食持参のこと)

集合場所 室蘭測量山 山頂駐車置き場

(悪天候の場合は中止)

宿泊場所

申し込み、問い合わせ 荻野裕子 (TEL 011-853-5712)

新しい試みをサークル活動として実施します。胆振地方や石狩地方、さらには各地からの参加を期待します。この日は日曜・祝日が重なり秋の行楽シーズンでもありますので車での移動や駐車について調整する必要がありますので、希望者は荻野まで連絡ください。

## 大麓山ハイキング登山会

富良野市の会員、南部栄一氏より上記の案内を受けました。大麓山は十勝岳連峰の最も古い火山で同山系の最南西端に位置し1459.5mの山です。富良野の公開セミナー事業、東大演習林の主催、富良野山岳会共催で行い誰でも自由に登れる山ではありません。希望の方は、南部栄一氏まで問い合わせ申し込みをしてください。

日 時 7月19日(月) 9:10集合

集合場所 富良野市麓郷市街地 麓郷森林資料館駐車場

コース マイクロバスで1000m地点まで行き、林道2km、登山道1kmを歩く。

申し込み 南部栄一氏 (TEL 0167-22-3953) 締切り 7月9日

# ボランティア・レンジャー・観察会

## 受講者募集！

ボランティア・レンジャー育成研修会を終了し、自然解説等を実践している方を対象に開催します。

日時 平成16年8月20日(金)13:00  
～22日(日)12:00

場所 留萌支庁 留萌市住之江町2丁目1-2

定員 20人(申込多数の場合は抽選)

研修内容 \* 講義「海鳥の生態」  
「野外観察時における救急救命法」  
\* 自然体験プログラムの体験  
\* 自然体験プログラムの作成・実演 等

参加費 20,000円程度(宿泊代、食事代等)  
なお、宿泊をされない場合は食事代、保険料のみ

申込方法 ハガキ、FAX、Eメールにて下記の内容を記入しお送り下さい

### 記入事項

氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、年齢、性別、電話番号(FAX、Eメール)、宿泊の有無、喫煙の有無、研修場所までの交通手段(自家用車又は公共交通機関)

申込締切 7月20日(火)

\* 申し込まれた方には7月30日までに研修内容などの詳しい資料をお送りし改めて参加の意向を確認します。

### \* 申込先・問合せ先

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

北海道環境生活部環境室自然環境課自然ふれあいグループ

TEL 011-231-4111 内線24-372 FAX 011-232-6790

Eメール nakajima.tomoko@pref.hokkaido.jp

主催 北海道  
後援 留萌市

# ボランティア・レンジャー育成研修会

## 受講者募集！

北海道の自然を楽しんでもらい、大切にしてもらうために人と自然の架け橋となるボランティア・レンジャー(自然解説員)としてボランティア活動をしたいと思っている方は是非受講してみませんか？

日時 平成16年8月20日(金)13:00  
~22日(日)12:00

場所 留萌支庁 留萌市住之江町2丁目1-2

定員 30人(申込多数の場合は抽選)

研修内容 \* 講義「海鳥の生態」  
「仲間をつかって活動しよう」  
「野外観察時における救急救命法」

\* 自然体験プログラムの体験  
\* 自然体験プログラムの作り方 等

参加費 20,000円程度(宿泊代、食事代等)  
なお、宿泊をされない場合は食事代、保険料のみ

申込方法 ハガキ、FAX、Eメールにて下記の内容を記入しお送り下さい

### 記入事項

氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、年齢、性別、電話番号(FAX、Eメール)、宿泊の有無、喫煙の有無、研修場所までの交通手段(自家用車又は公共交通機関)

申込締切 7月20日(火)

\* 申し込まれた方には7月30日までに研修内容などの詳しい資料をお送りし改めて参加の意向を確認します。

### \* 申込先・問合せ先

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

北海道環境生活部環境室自然環境課自然ふれあいグループ

TEL 011-231-4111 内線24-372 FAX 011-232-6790

Eメール nakajima.tomoko@pref.hokkaido.jp

主催 北海道  
後援 留萌市



## ボランティア・レンジャー育成研修会・実践セミナーについてのお願い

このことについての要項を掲載しました。本会の会員数を増やし活動を全道に広げていくためにも育成研修会について友人や知人にPRをお願いします。

実践セミナーについては、育成研修を終了した人達を対象としていますが道の自然環境課では会員の全てに案内を出していないとのことです。実践的な知識や技術を高めるよい機会ですし、今回は海鳥と海的环境についてのテーマでの研修ですので多くの会員の参加をお願いします。



## ボランティア活動保険に加入

今年度も会員全員にボランティア保険に加入しました。対象は国内における自発的な意思に基づき他人や社会に貢献する無償の活動で、本会の会則に則った活動が基本になります。具体的には、

### ・障害保険

ボランティア活動中の事故によりケガをした場合（活動に向かう途中、交通事故に遭いケガをした場合も含みます）

### ・賠償保険

ボランティア活動中の事故により他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりして法律上の賠償責任を負った場合

今年度、本会の会則に則ったボランティア活動で、万一上記に該当する事故に遭った場合、速やかに事務局（TEL 011-791-0127 田村）にご連絡ください。

なお、詳しい内容を知りたい場合も事務局（田村）にご連絡ください。

## 編 集 後 記

- ・ 表紙のとてもすてきな絵は会員の熊野美子さんに描いていただきました。今後、何回かにわたって描いてもらおうと思っています。
- ・ 小栗さんには多忙にもかかわらず今夏に登山することになっている“平山”について書いていただきました。  
小栗さんの手作りの山小屋に宿泊させていただいて高山植物の宝庫の山に登れることを楽しみにしています。みなさんも参加しましょう。
- ・ 今回は定期総会の報告などがあってかなりの分量になりました。
- ・ 各地での活動の状況を広報部まで知らせて下さい。機関紙「エゾマツ」を通してみなさんに発信していきたい。  
息(本町) TEL・住所 などは?
- ・ はじめて広報を担当しましたがあまりうまくいかなかったように思っています。今後、良い紙面づくりに励んでいきたいです。